

# 令和4年度文部科学省委託

## 「幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業（人材確保関係事業）」 概要版

公益社団法人山梨県私学教育振興会 幼稚園部会

### 【背景と目的】

- 平成27年に「子ども・子育て支援新制度」が施行され、当県では全加盟園の約8割強が新制度に移行した（令和4年度現在）。
- 少子化に伴う保育の供給過多が拡大するなか、これまで培ってきた豊かな幼児教育・保育の提供を通じて、地域づくりに貢献する新しい時代の幼稚園を目指すことが重要な課題となっている。
- そのためには、幼稚園教諭の確保と定着は必須であることから、人材確保に効果的な取り組みについて調査・研究を実施する。

研究課題	主な取組内容	成果と課題
養成・採用の強化及び魅力発信	① LINEを利用したアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で回答してくれた養成校もあり、県内の回答数は概ね満足のいく結果となった。</li> <li>アンケート結果では、実習内容が実習先への就職意向に大きく影響することが再確認できた。具体的には、園の雰囲気や園長や先生たちの対応の評価が高い学生は実習園への就職意向が高いことなどを情報共有し、各園において実習内容を見直していく。</li> </ul>
	② 幼稚園に関する情報一元化システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの内容を全て見直し、メインを各園詳細と求職者向け情報の発信に絞り、加盟園からも「見やすくなった」と概ね好評を得た。</li> <li>ホームページの存在をより周知する方法とSEO対策が今後の課題である。</li> </ul>
	③ 「私学人材バンク登録制度」の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送での履歴書提出を取り止め、ホームページ上の登録フォームへの入力に変更し、簡素化を図った。</li> <li>新卒者や中途採用者が人材紹介会社ではなく、本団体の求人登録を積極的に利用してもらうための広報活動を検討していく。</li> </ul>
	④ 実習・職場体験情報パンフレットの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教諭が保育の楽しさを語っているコメントや実習に関する情報を掲載した加盟園の紹介パンフレットを作成。協力園から高い評価を得ている。</li> <li>全加盟園の情報が載っているのが理想ではあったが、半数弱の園からは協力が得られず、意識の差が更に浮彫りとなった。</li> </ul>
	⑤ 養成校での就職説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の魅力や幼稚園の概要等に関する説明を重視しなければいけないが、学生は給与や福利厚生に関する話に興味があり、説明会の内容についてバランスを取るのが難しい。</li> <li>各園の説明を行う際は、プレゼン形式にすると、園ごとの特色を出しながら参加者全員に公平に話せてメリットが大きいことが判明した。</li> </ul>
	⑥ 養成校との意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで聞けなかった養成校の率直な意見を伺い、双方の情報を交換しながら現状を認識し合せて、非常に有意義な時間となった。</li> <li>来年度以降も本団体の事業として継続するが、幼稚園側の要望を一方向的に伝えるのではなく、双方にとって有益な情報交換の場であることを参加園が意識する必要がある。</li> </ul>
定職促進	① ノンコンタクトタイムの充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修を受講するだけでは実行に移すのが難しいと推察し、実際に社会保険労務士を派遣。最初の一步を踏み出せる環境を提供して、4園が取り組んだ。</li> <li>過密なスケジュールの中、業務の見直しや休憩室を新たに設けて日中の休憩時間を確保する等、実施園は精力的に活動し、短期間でも多大な成果を生み出した。4園の取り組みを更に進めるようフォローするとともに、他園にも取り組みを伝え広めていく。</li> </ul>
	② 設置者・園長向け研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化の現状や子ども家庭庁に関する情報等、様々な角度から幼稚園が今後に取り組むべき課題に対する情報を得られ、有意義な研修となった。</li> <li>可能な限り多くの幼稚園が継続し、子どもを取り巻く環境が魅力あるものとするためには、<b>加盟園間での情報共有や意見交換が非常に重要であり、希薄化した幼稚園間の繋がりをいかに強化するかが喫緊の課題である。</b></li> </ul>